

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藍野大学ファサード整備工事	階数	地上4F
建設地	大阪府茨木市東太田4丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	550 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2018年12月13日
敷地面積	1,726 ㎡	作成者	畑中 洋介
建築面積	953 ㎡	確認日	2018年12月13日
延床面積	3,193 ㎡	確認者	畑中 洋介



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 84%
③上記+②以外の 84%
④上記+ 84%

92 (kg-CO₂/年・㎡)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	使用建材は防汚性の高いものを使用し、維持管理がしやすく配慮した。また節水型機器の使用は資源の有効活用にもつながる	その他 特になし
Q1 室内環境	維持管理面において、防汚性の高い建材を用いた	Q3 室外環境(敷地内) 出来る限り緑地を設けた
LR1 エネルギー	BPlm=0.68、トップライトの採用	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率=84%
Q2 サービス性能	空調・給排水配管の材質については、主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-変-0018

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)藍野大学ファサード整備工事							
	建設地	大阪府茨木市東太田4丁目							
	用途/区分	学校(大学等)							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			4					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			5					
④	エネルギー削減			3					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.3	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		